

国語

➡ 中学年 | 「読むこと、書くことの学習」

「新聞」を利用した学習活動を考える

1. 新聞を読む子は成績がよい？

教育現場に「新聞」を取り入れようという動きは「NIE (Newspaper in Education)」を先駆けとして、現行の学習指導要領に明示されるに至りました。新聞の電子化が進み、教材として利用しやすい環境が整ってきたことや、「新聞に親しんでいる子は成績がよい」といった風評も、その広がりの後押ししているようです。高学年でなくとも、新聞記事をスピーチや日記を書く材料としたり、教科書の補助資料として利用したりすることは行われてきたと思います。それを、より意図的・計画的に、授業で活用する方法を考えて年間を通して取り組んでみました。

2. 「掲載写真」を比べる

例えば、「アップとルーズで伝える」という単元(光村4年下)では、カメラの「ズーム」と「ワイド」によって、情報の質がどのように違ってくるのかが説明されています。そこで、「それぞれのお家の新聞に載っている写真と記事を使って確かめよう」という課題を出しました。切り抜きを持ちよれば、各写真が記事の中でどのような内容を伝えるために用いられているか、見比べて検証できます。中には広告まで持ってくる子もあり、おまけとして行った「大きな広告比べ」では、文字をどのように入れるかという表現の工夫について学ぶこともできました。

3. 「見出し」を比べる

次のステップとして、扱っているニュースが同じでも「見出し」が違う例を取り上げ、立場が変わると表現の仕方が異なることを学ばせました。選挙結果を「〇〇議員、辛勝」と伝えているものと、「△△

議員、惜敗」と書いてあるものを例としました。

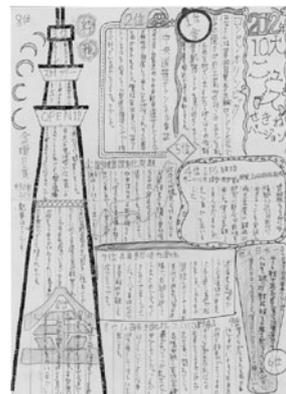
4. 同一体験を異なる立場で表現させる

他に立場の違いを実感させる上で効果的だったのが、運動会前の「赤組新聞」「白組新聞」の発行でした。この時期は何かと慌ただしいですが、学級日誌代わりに、ノート1ページ分のミニ新聞を、練習期間中に継続して発行させました。すると、赤組、白組それぞれ、練習試合の勝敗の伝え方にとどまらず、新聞の発行回数までも競い合う姿が見られました。

5. 他教科の学習内容をグループ新聞にまとめる

社会科見学の体験を、作文ではなくグループ新聞にまとめさせ、さらに「新聞コンテスト」を開催しました。テーマは社会科でも、新聞の書き方やまとめ方の学習は、「みんなで新聞を作ろう」という単元(東書4年下他)にみられるように、国語の大切な学習内容です。コンテストでは、定期購読したい新聞(☆)、買ってよい新聞(◎)、買わないが内容はよい新聞(○)という評価に加え、必ずアドバイスを書くという条件で行ってみました。

6. その年の「10大ニュース」を選ぶ



冬休みには、「ぼく、私」が選ぶ10大ニュース」の新聞を書くという宿題を出しました。この頃になるとレイアウトも含めて、目をひくユニークな新聞が増えてきました。

◀ ある子どもの作った新聞です。スカイツリーのデザインがインパクト大でした。